

徳島ダンプ25年史



全日本建設交運一般労働組合
徳島ダンプ支部

ダンプ組織づくり始まる

ダンプの組織づくりが始まる当時は、貞光町に労災職業病患者組織の紹介で6名の組合員が労災加入のメリットで組織されていました。M組とY産業の専属ダンプでした。

1987年4月、中央オルグとして佐野を雇い入れダンプの組織づくりが始まりました。

同年4月29日、ダンプ・タクシー分会・運送分会を合わせた運輸部を発足させ、ダンプの組織づくりを本格的に進める会議を持ち、組織づくりが始まりました。

同年5月10日、機関紙ハンドル創刊号を出す

「ハンドル」それは運輸労働者が毎日、額に汗して働く姿。その中で一番愛着を感じ、車を右へ動かすも、左に動かすもハンドル、それを動かす労働者にかかっています。そこで、運輸部の機関紙の名称を「ハンドル」と名付けることにしました。

島本 勝次

関東ダンプへ研修

1987年5月、全国ダンプ対策会議が中央本部会議室で2日間の日程で開かれました。会議が終わった後、千葉県利根川の砂山、茨城県の合材プラント、碎石山の見学をし、夕方より茨城ダンプの仲間とラーメンを食べながらの交流会を行いました。会議、研修と4日間、はじめての経験ばかりで大変勉強になりました。

佐野 誉

免許証を守る学習会

1987年11月、88年6月、道路交通法の心得と題して免許証を守る学習を開きました。

ダンプの職場は道路です。関東ダンプでは、過積載、交通事故があれば、仲間が集まり現場検証を行い、ダンプの過失など問題点を探り警察への要請、保険会社への対応など免許証を守る道路民主化運動を進めています。



道交法学習会 杉山講師

50名突破

1988年9月、組合員50名を突破しました。

ダンプ担当オルグ佐野は、自宅阿南市から徳島市へ下宿して夜のオルグ活動に専念しました。

ダンプは大変

私は、月に何度か佐野オルグと一緒に同行し活動しています。そんな中感じたことは、一

見年何百万円という水揚げがあり「ダンプの人はいいなあ！」と思っていましたが、自宅に行って話を聞いてみると、車の償却費、タイヤ代、修理代と莫大なお金が掛かり、生活は厳しく、大変だと思いました。・・・ダンプの仲間と共に頑張りたいと思います。

島本勝次

ダンプ労災事故で死亡

同年11月17日、貞光町でアスコンガラを廃棄場に運搬中のKさん(53歳)が、ダンプの左前輪がパンクし、ハンドルをとられ約30メートル下の貞光川へ転落し亡くなりました。労災加入していたので遺族請求を行い、遺族には遺族特別支給金300万円、葬祭料60万円が支給されました。また毎年、年金193万円が支給されています。



徳島県下初 ダンプ組合旗揚げ

1989年1月4日午後4時、ホテル千秋閣で組合員80名のうち20名が参加してダンプ分会、結成総会を開きました。

結成総会終了後、新年会で団結を深めました。

100名突破

1989年7月、組合員100名突破しました。また、7月23日に組合員16名が参加して徳島ダンプの役員体制を決めました。

全国ダンプ5000人突破記念集会

1989年7月、全国ダンプ交流集会が栃木県那須温泉で開かれました。徳島ダンプを代表して、米田さん、笠井さん、佐野が参加しました。参加費用として48名の仲間よりカンパをいただきました。



安全宣言プレート

1989年11月、ダンプ組合は仲間の交通安全意識を高め、安全運転を宣言、組合員の団結をはかり、仲間同士の助け合い、四国規模での組織づくりをめざし「安全宣言プレート」をつくりました。85名が購入し、ダンプのダッシュボードに掲げています。





1110名・事故不起訴署名集まる

1990年3月、交通事故で検察庁の取り調べを受けているHさん、過失がないことを訴えましたが、検察庁は聞き入れてくれません。組合では不起訴署名を組合員などに協力してもらい1110名集め、検察庁へ提出しました。

県土木部長通達だす

1990年12月、徳島土木部とダンプの単価改善について交渉しました。組合よりダンプ支部から米田委員長他4名、徳島支部より3名、県は土木部監理課長、企画監、主幹、建設指導係長、労政訓練課長補佐が出席しました。交渉の中で土木部長通達を出すと回答を引き出しました。通達の中身は、ダンプトラック等による過積載の防止の表題で、☆過積載をしない。☆過積載を行っている業者から資材を購入しない。☆過積載を防止するため、ダンプの利益を不当に害さない。との文書を出させました。

単価改定文2400社へ郵送、

県・経営審査でダンプ単価指導、2000円単価引上げ

1991年3月、建設業協会が組合からの単価改定文(土木部管理課了解)を建設業者2400社に配布してくれました。必ず読んでもらうために、封筒の表には県土木部の了承を得て『徳島県土木部管理課との重要協議事項』のスタンプ印を押して提出しました。また、部長通達の徹底を図るため、91年6月10日から14日にかけて指名業者2400社を呼出し経営審査の中で県は「ダンプの積算単価が、支払われるときは4割になっている。ダンプの利益を不当に害することのないように、適正な単価を支払うように」と指導しました。

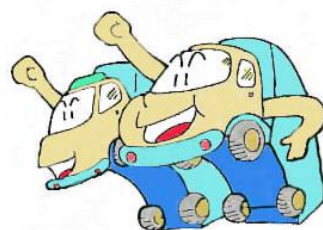
このような動きの中で、数十年来値上げがなかったダンプの単価が1日常用2,000円上がり、32,000円になりました。

徳島県ダンプ協同組合を設立

1991年1月、ダンプ規制法に基づいたダンプの協業化促進のため協同組合づくりを始めました。県、建設省交渉では協業化(3分の1組織)すればダンプの使用促進、援助を行うなどの話し合いがもたれました。

目的は、組合員の経済活動を促進し、経営の合理化及び経済的地位の向上。

事業は、安全輸送の教育、過当競争の防止、共同購入(タイヤ・



オイル・燃料)、ガソリンスタンドではダンプの洗車を嫌うので共同利用施設(洗車機・洗車場)、共同受注、プレートの発行、労働保険の取り扱い、ダンプの分離発注をめざすものです。

名称は、仮称徳島県ダンプ協同組合でしたが、中央会が努力してくれ、最終的に名称は、徳島県ダンプ建材業協同組合になりました。

県警本部・交通機動隊へ要請、警察との闘い

交通機動隊内で 座り込む仲間

1991年6月、ダンプTさんが過積載の取調べに中、交通機動隊に逮捕されるという事件がありました。組合は、徳島県警察本部及び交通機動隊に不当逮捕の要請行動を仲間13名で行いました。

逮捕の要件は、①住所、氏名があきらかでない。②証拠隠滅のおそれがある。③逃亡の恐れがある。この理由でなければ逮捕できないとなっています。

しかし、今回Tさんの場合は、交通機動隊員に免許証及び車検証を渡



し、住所・氏名は明らかです。ダンプには荷が積んだ状態で交通機動隊員数名がおり証拠を隠すことはできません。Tさんの横には数名の交通機動隊員が常におり、本人は堂々と対応していました。逃亡の恐れはありません。以上の内容から今回の逮捕事件は、ダンプだけ取締り、言いなりにならないTさんを見せしめに逮捕したものです。(佐野が駆け付けた時、目の前で強制捜査のため逮捕すると交通機動隊員がTさんを連れて行きました。)

ダンプの過積載は、請負業者が荷をたくさん積むことでもうけを出すことに問題があります。ダンプは1日い

くらの常用単価で働いているため荷が多い少ないで単価に影響はありません。

不当逮捕(強制捜査で逮捕はできない)に対する抗議と、過積載をなくすには、荷の背後責任を徹底し、両罰規定を適用するよう要請しました。

阿南警察へ要請



1991年8月、ダンプの車検問題で、組合員のダンプを取り調べに持って帰った阿南警察に早急に返還するよう求めました。今回の事件は、ペーパー車検を本人が自動車会社に依頼したかどうかにはありません。しかし、ダンプを長期にわたり返さないのは本人及び家族の生活を奪うことになります。

組合は、『生活権』などを訴えて要請しました。

健康診断を実施

1991年9月、ダンプは身体が資本です。組合員の健康管理のため徳島健生病院とタイアップして健康診断を行いました。

200名の徳島ダンプめざし、全国1万人へ 推進委員登録を！

1991年9月、「92年7月の1万人突破記念集会」を成功させるため推進委員の登録をはじめることになりました。今回の拡大は、『みんなで行動・みんなで拡大』する立場で、何らかの行動を起こし。組合員半数の拡大推進委員の登録をします。推進委員には、登録証及びテレホンカードが進呈されました。



県ダンプ単価を調査し指導

1992年4月、徳島県土木部監理課は、県下の指名業者2046社に対しダンプの1日の常用単価を調査しました。この調査は、組合が『末端ダンプは3万円しかもらっていない』県は原価割れの状態を把握し、適正な金額を支払わせるよう指導せよとの要請に、すべての市町村で調査させたものです。

指名業者から支払われた単価は、平均で徳島市33000円、阿南市32000円、木頭村34000円、板野町33000円、池田町34000円でした。

初の徳島ダンプデモ39台参加

1992年5月、交通安全と「過積載をしなくても生活できる賃金を」訴えて全国統一ダンプデモを実施しました。徳島県では初めてのダンプデモ。迫力満点のアピールに、ドライバーや道行く人も目を奪われていました。この日、全国では一八都道府県で800台がダンプデモに参加、要求実現と団結しました。



ダンプデモ参加車両



第2回全国ダンプ交流集会

1992年7月5日～6日群馬県水上観光会館で、第2回全国ダンプ交流集会が開かれました。参加者は、30県、533人の参加で徳島ダンプからは7名が参加しました。

全国36都道府県にダンプの組織ができ、9千人の組織に発展しました。『車持ちダンプ労働者』として、労働者性確立と権利を守る闘いが前進した事。経済闘争でも、単価引上げの要求前進が報告確認されました。



第2回交流集会参加者

《参加者の声》 その後、婦人部結成へ

「過積載に捕まったときのコント劇がよかった」「白ナンバーは違法でないことがわかった」「かわいい彼女と愛が実りかけ・・・」「滋賀の20周年に婦人部をつくり参加する」

徳島ダンプ婦人部づくりは、交流集会参加後、阿南市山口町えもとで女性数名が集まり婦人部の運動について話し合い、婦人部長の確認、もっと多くの参加者で婦人部を増やしていこうと意志統一しました。



滋賀婦人部と交流

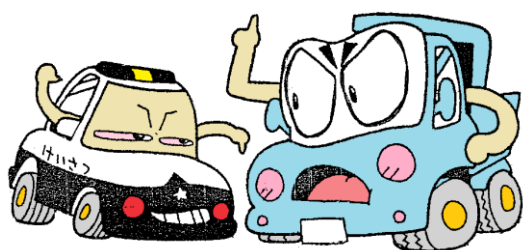
白ナンバーダンプ白トラ行為で書類送検

1993年9月、県警交通指導課と牟岐署は、ダンプ運転手が運送業の許可を受けずに自家用ダンプで碎石現場から建材店までバラスを運び賃金を得たとして、貨物自動車運送事業法、道交法違反の疑いでダンプ運転手13名と建材業者を書類送検しました。

相談を受けた組合は94年1月19日徳島陸運支局、20日高知陸運支局及び四国運輸局

に対し不処分要請を行いました。また、牟岐警察、阿南検察庁へは『ダンプは車持ち労働者』であること、ダンプの持ち込みという形式以外は、雇用労働者と同じであると不起訴要請を訴えました。

全国の仲間とともに闘い不起訴を勝ち取りました。

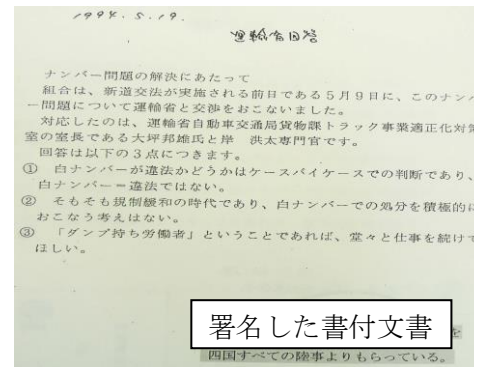


四県の陸運支局から『ダンプ持ち労働者』との書付を取る

1994年5月、運輸省自動車交通運輸局トラック事業適正化対策室と全国ダンプ部会が交渉し、ナンバー問題について①白ナンバーが違法かどうかはケースバイケースでの判断であり、白ナンバー＝違法でない。②規制緩和の時代であり、白ナンバーでの処分を積極的に

行う考えはない。③『ダンプ持ち労働者』ということであれば、堂々と仕事を続けてほしい。との回答を引き出しました。

これをうけて組合では、97年5月愛媛陸運支局をかわきり(文書を活用し、愛媛ダンプ組合員職場復帰)に同年7月徳島陸運支局、98年1月香川陸運支局、同年1月高知陸運支局と次々交渉し、①～③の文書に趣旨は同じと支局長名等で署名捺印させました。



丸岡さん採用

1997年8月、丸岡昭さん採用しました。民青(青年運動)を卒業して1年「生きがいのある仕事がしたい」と建設一般に飛び込んできた。34歳まで民青の活動家、長年勤めた地元大企業の職をすて世なおしの建設一般に人生をかけた。 平田敏行(新人紹介文より)



池田国道維持出張所白ダンプ排除撤回

1997年9月、池田の道路建設現場で白ダンプという事で、仕事を排除されたと組合員から連絡をありました。早速、池田国道維持出張所に抗議に行きました。池田国道維持出張所は、ダンプの背番号〇建はいいが〇販は、販売業者なので建設現場で土砂を運搬することはできないと回答。組合から背番号は交通安全対策、労働者性を説明。また、建設省、運輸局の見解を示し白ナンバー排除を撤回させました。

ダンプ後援会結成

1998年5月、ホテル千秋閣で建設一般徳島ダンプ後援会を結成しました。ダンプから



「仕事は月に10日ぐらい、夏場は2～3日しかないどうかして」「ダンプが安心して生活できるようにならないか」など要望が出た後、労働者後援会見田事務局長、山田県議より「今の生活をよくしていくために参議院選挙で勝利しよう」と訴えがありました。全員から選挙カンパを受け、事務局長丸岡さんを選出しました。

春の拡大月間

四国ダンプ協議会は、『四国は1つ』を合言葉に拡大、諸要求に協力してきました。去年1月より愛媛ダンプに担当者を配置し、徳島、香川、愛媛とそれぞれ担当者ができました。3月～4月、春の拡大月間です。徳島ダンプは、拡大対象者の紹介者にタレゴム、20L オイル S-3 を贈呈し仲間の紹介を訴えました。



300名突破

1998年7月、組合員現勢で300名突破しました。

ダンプの組織を香川でさらに広げ、続いて愛媛・高知と広げ、四国ダンプ協議会を発足させよう。

四国ダンプ学習・交流集会開く



1998年7月26日、香川県の湯元塩江温泉ではじめて、四国ダンプ協議会の学習交流集会を開きました。徳島、香川、愛媛の仲間18名が参加しました。本部の杉山さんを講師に「ダンプ労働者の要求闘争、権利拡大の前進、26年間の闘争を振り返って」と題して学習を行いました。

また「組合は、過積載根絶、右折事故防止等で交通安全で多大な貢献をしてきた。公共工事での使用促進は当然。ここに確信を持って組合活動を行ってほしい」と組合が勝ち取ってきた成果を報告。学習会後は、交流をかねて昼食会を行いました。

高知県、白排除撤回し職場復帰する

1998年9月9日、高知県中村市のダンプから「土佐清水市の工事で、運送会社から白ナンバーダンプ走っている違法だと」市に投書があり仕事から排除されと連絡を受けました。

組合では14日、四国地建高知事務所、高知



↑ 高知県土木 ↓ 高知陸運支局



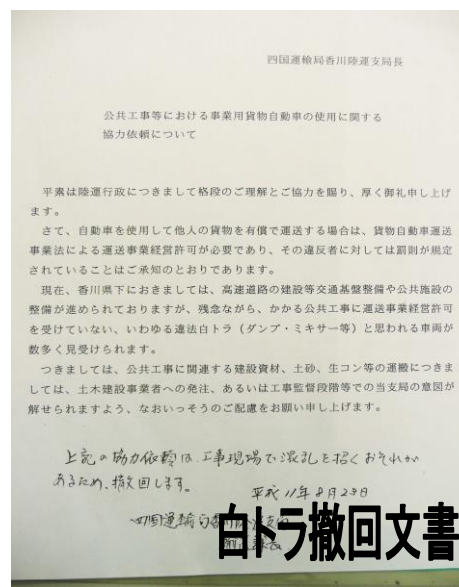
県土木部へ要請に行きました。20日～21日は6時間かけ建設省中村工事事務所、県中村土木事務所、県宿毛土木事務所、土佐清水市農林水産課へ要請。各所ともナンバー問題を理解し、その場で元請に連絡を取り、次の日から現場に復帰することができました。

今回の白排除の原因は、県が3年前に出した指導事項(緑ナンバー優先使用文書)が、いまだに改善されなくて文書はなくなったが各土木事務所が口頭で指導していたのが原因でした。同年10月、高知県で白ダンプの使用できるについて周知徹底文書を出させました。

香川陸運支局・白トラ文書撤回する

1999年7月、香川陸運支局はダンプ・ミキサーが白トラ行為だとの文書を、香川県、生コン協同組合、建設業会等へ出しました。これは、香川県下で高速道路の整備が進められている工事を緑ナンバーの会社が仕事にありつくため投書し、香川陸運支局がそれに応えて出したものでした。

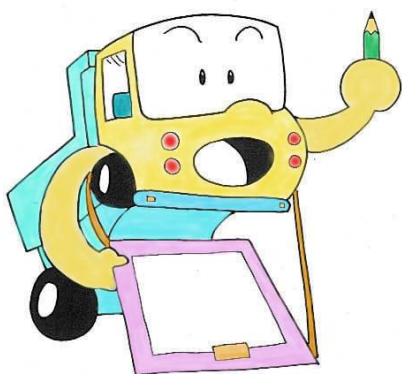
組合は、ダンプは違法な白トラ行為でないと香川県、生コン協同組合などへ説明に回りました。香川陸運支局に対しては徹底した抗議行動を起こし、謝罪と文書の撤回をもとめました。香川陸運支局は提出先すべてに、文書の破棄を求める文書を出しました。



職歴提出で建退共添付を約束

2002年2月、組合は建設業界県外協議会の会長と副会長に会い、ダンプの建設業退職金制度について合意しました。①元請・下請業者が末端業者に証紙が行き渡るよう指導。②ダンプを使う末端の業者が証紙を添付するよう指導。③ダンプ組合から職歴(日報)を提出し、証紙の払出請求があれば手続きに応じる事。また、組合が業者に証紙をもらいに行きトラブル・問題があれば業者を指導する。

組合員のみなさん、職歴を組合まで送ってください。業者ごとに整理し証紙をもらいに行きます。



軽油取引税暫定措置廃止し、

7円80銭値下げを！！

2002年6月、建交労は軽油取引税のうち暫定措置の増額として5年間の時限立法として決められ、今回で3度目の延長がなされようとしています。1リッ

ターあたり 7 円 8 0 銭の廃止をもとめて署名等の活動を強化します。トラック業界あげでの運動です。私たちダンプも全力を注ぎ、業者への署名活動に 1 軒 1 軒廻っていきました。

企業組合で運送許可取得

2002 年末頃から、徳島県警交通指導課と市場警察は、生コンの白トラ行為で県南、北東部の生コン協同組合をまわり、ミキサー車が仕事に来ているかなど事情聴取を行いました。その結果、各生コン協同組合各社は白ナンバーのミキサー車使用を取りやめました。ミキサー車の組合員は、このままでは生活できない廃業してしまうと組合に相談があり、何度も会議を開き検討した結果、営業ナンバーを取ろうという結論になり。03 年 1 月、企業組合で運送許可をとりました。その後、阿南のダンプへと広まりました。

違法白トラ生コン運搬徳新で報道・全員不起訴

2003 年 3 月、徳島空港拡張工事で白ナンバーのミキサー車が動いているとの投書等があり、徳島県警交通指導課と同高速隊、市場警察の合同捜査班は、貨物自動車運送法違反の疑いで生コン 5 名を書類送検(署名捺印)しました。

組合は、生コン業界の実態、ミキサー車の労働実態、仕事の依頼、業務遂行上での労働、拘束性、代替性、賃金額から労働者そのものといえる事を検察庁へ要請しました。長い闘いでしたが、同年 12 月 1 日 5 名全員の不起訴を全員が勝ち取りました。



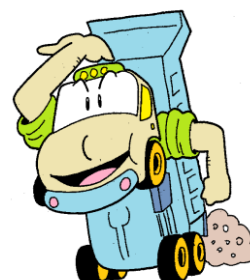
企業組合で収集運搬業を取る

収集運搬の許可は、車両の借上げ書があれば取得できましたが 02 年 4 月ごろから県の指導が厳しくなり(変更)取得できなくなりました。

2003 年 5 月、組合では県環境整備課と話し合い、企業組合ライフ・ワークで許可を取得し運転手として働く道を切り開きました。

福井トンネル工事で初の就労闘争・白排除くつがえす

2004 年 11 月、元請の大林組と 5 月から交渉していた福井トンネル工事で就労することができました。



この工事は、仕事が出る前から白ダンプは使用できないと言われていました。このことを重く受け止め組合では、白ナンバーが違法でないこと、交通安全団体の組合を使用促進する指導文書を示し就労に結び付けました。単価は、1日あたり3万4千円プラス消費税と建退共で、市場の白ダンプより1日の単価は高くなりました。問題点は、使用促進運動で目標とされている単価(4万円)でとることはできませんでした。しかし、一部で地場単価に影響を与えることができ、白ナンバーでも就労すること、ダンプに建退共を貼らせることができた闘争でした。他のトンネル工事でも白ナンバーダンプで就労することができ、影響を与えることができました。

平和のダンプ・ミキサーデモ



2005年3月20日、イラク戦争から2年、もう戦争はいらない、世界の人々とともに。平和のための「ワールドアクション徳島」が行われました。組合としてもこの集会を成功させようと、ダンプ18台、ミキサー8台、宣伝カー4台合計30台でデモを行い参加しました。藍場浜公園からのピースウオーク(人のデモ)と途中合流し、共に平和を訴えました。



市の入札に参加・1日4万円以上

2005年4月、徳島市が発生する一般廃棄物を運送する入札がありました。入札説明会では、通常のダンプは荷を下ろす時リヤゲートに荷が引っ掛かるので使用できない。ベッセル式ダンプでないとだめと言われました。組合では、ダンプ規制法を検討し、徳島陸運支

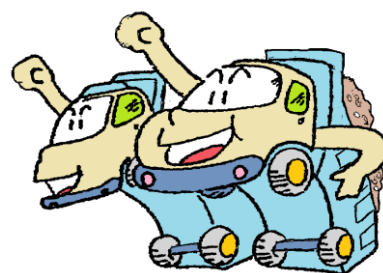
局とリヤゲートを外した状態での走行は可能だと確認。徳島市へそのことを伝え、安全走行のためリヤゲートにチェーンをクロスにかけ走行することを説明。通常のダンプでも入札する道を開くことができ、見事落札5月より就労しました。最初は説明よりも荷が軽く1日3万円を切る単価でしたが、入札条件が違うということで市と話し合い、トン単価を見直してもらい、4万円以上で1年間就労できました。

不払い全額回収・車持ちダンプ労働者認め

2011年7月、県内大手であったY建設が倒産し、6月分の賃金がもらえていないと組合員より相談がありました。

組合では解決に向けて検討、①建設業法での下請倒産した場合の元請受け立て替え払い請求については、工事を調べた結果、元請工事だけなので制度利用できない。

②雇用保険を財源として支払われる未払い賃金の立て替え払い制度の活用を検討。この制度の活用は、ダンプを労働者と認めらせることができるかどうかがかギでした。組合は、元請会社の管財人とダンプの実態、労働者性を訴えました。また、監督署交渉を行い、国への直接請求ができるかを要請しました。倒産会社からも応援してもらい9月に全額回収することができました。



国交省那賀川「白排除」しないよう！職員に徹底指導

2012年9月中旬、組合員より連絡があり「国交省那賀川事務所の現場で、技術課の人3～4人が、元請に対し『現場で白ナンバーを見た。いかななものですか』と言いに行き。それが現場で問題になっている。「白ナンバーでも大丈夫と、説明して」との事でした。

早速、事務の副所長に連絡し「白ナンバーが現場に入っても何の問題もない。組合は、使用促進団体。優先して使うのがあたりまえ」「現場では、ちょっとした言いまわしが白排除につながる。もっと気をつけてもらいたい」と要請しました。

副所長は「白ナンバーを排除するような指導はしていない、すぐに撤回させる」と回答。

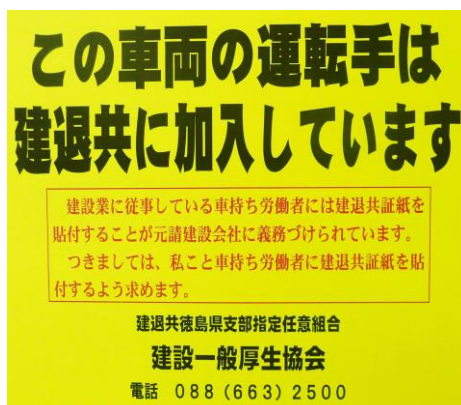
また、組合から「二度こうしたことがないように、講習会を開いて職員を指導してもらいたい」と要請し副所長に約束させ、職員にナンバー問題を徹底させました。

後日、組合員に聞くと、副所長より、元請に連絡が入り、何の問題もなかったとのことでした。



ダンプキャラバン・那賀川事務所

建退共ステッカーをダンプに提示し、加入をアピールしよう！！



2013年9月、建退共ステッカーを作成しました。建設業退職金制度は建設現場で働く人のために国が作った制度です。しかし、ダンプには建退共証紙は貼られていません。

ダンプキャラバン等で行政は、ダンプに建退共制度を徹底していると回答しています。組合では、『建退共に参加しています。』のステッカーをダンプのダッシュボードにかかげ、アピールをすることになっています。ぜひ活用してください。



愛媛ダンプ専従沢田さんと丸岡さん新人研修会



第10回定期大会

初代ダンプ委員長 米田 典晃

全日自労建設一般労働組合第1回全国ダンプ交流集会で、栃木県那須高原のロイヤルホテルでの集会の中で、どこの支部の人だったかわからないが誇らしく運賃の値上げを勝ち取ったと語っていた姿が今も私の心の中に残っています。

私達もじっとして居た分けでなく、共産党の県議で服部先生はじめ党のみなさんと建設省に赴き所長さんに会い、ダンプの実状を訴えたと所長さんも分かってくれてダンプの運賃は三万二千円する事と白ナンバーであっても青と同じ運搬をしても良いと言うことを認められました。この時の所長さんの寛大な処置に心より感謝しています。

これも皆が団結したから勝ち取れたのです。

また、悪い事がありました。ダンプの中の親です。会社のピンハネが無ければ親がピンハネするこの悪い習慣をなくさなくてはダンプの明日はない。

これからも仲間の皆が団結しなくては私たちの夢も喜びもない。



米田委員長

歴代委員長



柳沢 昭安



林 芳之



佐野 誉



笠井 日善



酒井 英夫



押栗 宏佳



安田 貴志



山岡 敬二

私の25年間を振り返って 野々瀬 誉

私が労働組合に係わるきっかけは、高校卒業後徳島ダイハツに入社して先輩から「組合を作るので仲間にならないか」が出発点になります。3年後、委員長に祭り上げられ会社で労働組合を旗揚げ。会社は第2労働組合をつくり、私たちの組合はつぶされました。

1987年4月、全日自労徳島支部(ダンプ組合の県上部団体)がダンプの専従者を探していると友人から声をかけられダンプの専従になりました。

組合に入ってから1ヶ月間は、県議選挙があったので政党カーの運転手。(朝から夜まで大変でした)2ヶ月目から本格的なオルグ(組合員を増やす)活動を開始しました。

給料は、月給15万円で入りましたが、いつの間にか日給4千円の日雇いになっていました。家のローン6万円、タバコ代でお金はすべて使い切り。夜訪問した時、組合員宅で食事が出るとありがたかった。このころ大切な人が去っていきました。

88年夏、仕事は毎日オルグで夜中、私生活もいろいろあり、ついに家を出て市内の友人宅で下宿生活、組合活動に集中しました。

財政が厳しいとき、古紙回収を始めました。各団体をまわり新聞を集めて古紙回収会社へ。伝票をもらい市へ補助金を請求。(あまりもうからなかったし汚い仕事でした)

89年、ダンプ組合員80人で支部組合を結成。

90年、どうにか見合いで結婚。佐野から野々瀬へ。やっと採用時の月給になりました。

91年、長男誕生、慢性疾患で徳大病院での入院生活(妻は病院で別居生活)。その後も通院、検査入院の繰り返し。

93年、白トラ行為の闘いは警察との闘いでした。この闘いは、警察で容疑を認め署名捺印してからの闘争でしたから警察への要請行動は大変でした。その後もナンバー問題はいろいろな形で出てきました。その都度徹底して闘ったことが、今日まで徳島県で白ナンバーが働くことができた結果につながっています。四国の他県では、営業車が多数で一人親方は少数です。



97年、丸岡さん入社。彼についてはこの場で書き尽くせない酒のエピソードがあります。いつか特集を組みお知らせしたいと考えています。

全体を振り返って、正直「自分ではむりだ。やめたい・やめたい」の毎日でした。今日ががんばったら明日やめようの気持ちがこんにちまでつづく結果になりました。

また全国的な役割として、徳島ダンプは、各県の研修員もたくさん受け入れました。四国、九州、中国、近畿、東海、関東、東北と多くの新人が学習と経験を積んで帰っていきました。

ダンプの労働者性(白トラ排除行為)、地位向上はまだまだです。組合員の相談毎は、自分のことと考え全力を尽くしたいと思っています。

ダンプ組合の専従になって 丸岡 昭

私が組合に入ったのは、高校卒業後、地元の山陽国策パルプ(現在日本製紙)に入社し16年目に入ったころでした。以前から知り合いだった佐野さんに「ダンプ組合と一緒にやらないか」と誘われ、色々悩みましたが組合の専従になることを決意しました。34歳でした。結婚し家を建てていたころなのに、パルプ時代の手取り30万円以上から月給18万5千円と減りました。



組合に入ってから活動の中心はオルグでした。まだ組合に入っていない人の名簿で住宅地図にしるしを付け、夕方から夜にかけ自宅へ訪問しました。徳島では「ダンプ協会」の名前が通っていましたが、1度や2度の訪問ではなかなか入ってくれません。それでも未加入の人の要求や仕事のつながりなどを知るため訪問活動を続けました。

ナンバー問題では、徳島だけでなく高知県・香川県の国の出先機関、県庁と交渉し白ナンバーでもOKだと説明し現場復帰を勝ち取ってきました。

高知県宿毛の組合員から「今までは、白ナンバーと言うことで、目立たないように山道ばかり走ってきたが、これからは堂々と国道が走れる」と話していたときの顔は、今でも忘れません。

愛媛・香川とダンプの担当者がいなくなった今、徳島が四国全体の担当となりました。そうはいっても2人ですが、できる限り直接会って話をしたいと思っています。

島 徳
ダンブ

発行者 千 770
建設全日自勞徳島運輸部
徳島市幸町三丁目
番(0886)22-4347
責任者 岩本 一男

徳島県下初 ダンプ組合 でっかく旗揚げ



「結成大会での真剣な討論」

組合の総会には、組合員八十人（十二月末日現在）の内二十人が参加し、ダンブ組合の進むべき道（方針）を討論しました。

建設一般全日自労働島支部ダンプ分会の結成總會を四日午後四時、ホテル千秋閣で開きました。

これまで全日自労に個人加盟していたダンプ労働者を中心に分会として正式に発足したものです。

ダンブ労働者
がっちりスクラム

過積をなくし
て安定賃金を

公共事業の発注単価が明示
されていないため、六万円近
く出でいる単価も末端のダン
プのところにくれば、三万前
後と信じられないようなピン
ハネが行なわれ、雇い主は好
きなだけ荷を積み、警察に捕
まれば、罰金は自分で支払う
など厳しい労働条件で働いて
いる報告が相次いだ。

みんなの力を
仲間をうや
まう！



陸奥國上毛郡八雲村



高知県警察本部

四国キャラバン

道路公団・香川県・徳島建設業協会回答

公共工事での組合車使用促進徹底の為
組合のパンフを各事務所等に送ります

四国ダンブ協議会は、ダンブ労働者の要求前進めざして「全国キヤラバン四国行動」を、七月十七日（徳島県・十八日（香川県・二十五日（香川県中央出先）・二十六日（高知県）と、組員員、専従計十四名が要請行動を行いました。

ナンバ―問

トラブ。協会が、仕事が減ると「白ナンバー営業自粛の通知」をダンブの個人・砕石場などに送っているが止めてもらいたい。

組合車の使用促進

建設省は公共工事の使用促進は組合の車となつながら添えます」と回答しています。

徳島陸運支局（ダンブ）
 時も労働者にも違法でない
 わせに来た時に説明する
 高知陸運支局（白チン）
 が違法でないことを
 フレックス協会にも伝えて

徳島建設協会は、
 合発行の公共工事使
 促進は組合員の説明バ
 ンレットを建設業会

ているが、実際には
 が徹底されていないと
 合が追求

八百人に達します。

道路公団四国支社も使用促進徹底のため各工事事務所に「組合説明パンフ」を計三百部送ります。

交渉相手

（四国支社）

香川県 組合改選パン
ダを合す。事務所所に計
七十部送りまし
組合パンが徹底され
れば、組合者の公共工事
での使用促進も、白パン
パー掛り問題も前進し
ます。

元請・紹介

建設省、農、公団等に
対し、単独開標で元請
指導を行っていると同業
としているが、いづれに
選定されない。落選でき

西松屋
東川興
高松正
高松建設建設
高松建設建設
高松建設建設
高松建設建設
高松建設建設
高松建設建設

ハ
シ
ド
ル

四国ダンプ協議会
徳島市幸町 3-3-7
Tel. 088-653-2328
Tel. FAX 625-9529

徳島ダンプ支所
TEL 088-653-2328
FAX 088-625-8528
香川ダンプ支所
TEL 0878-86-1962
愛媛ダンプ支所
TEL 089-876-5550
FAX 089-870-2820
高知ダンプ
TEL 088-882-2541



高知県土木部へ要請

四國話一
みんみな
なごて
行決話
動めし

以上の事を詳しく説明していただきます。

燃料カード
値上げの、

お知らせ
中央本部での施設交通
で原油の値上げにより、
宇佐美
七月三十一日より一回
五十銭

日石三菱、JOMO
八月一日より、一円
引き
八月三十一日より二
以上が一りのきり増え
り値上げになります。

新が行われます。新しい保険証を八月初旬にお送りします。つきまして古い保険証は、組合までお送り下さい。

レ100号

ハンドリ

ハンドル100号

道路を職場としている私たちにとって、免許証は命の次に大切な物ですが、警察の一方的な取り締まりに、納得できない例が少なくありません。

組合は道路交通民主化をめざし学習会を開きますので仲間を誘い合い参加して下さい。

免許証を守る

連絡先
徳島市幸町三丁目
建設一般全日自労徳島支部
電話22-4347

6月12日(日)
6時30分より～
組合事務所(徳島市幸町3丁目)
講師：関東ダンプ

警察の取り締まりをはねのけた経験豊富な講師で

たよって安心組合の税金申告 夜や休日の日にも相談できます

奥様必見 これだけちがう税金申告

これまでわ...

3/6 (水)
平日の税金申告
平仕納税
日曜日の税金申告
日曜日の税金申告
日曜日の税金申告

あつこれねこれだけだ
あつこれねこれだけだ
あつこれねこれだけだ

GAA-N

これから...

3/2 (日)
日曜日の税金申告
日曜日の税金申告
日曜日の税金申告

あつこれねこれだけだ
あつこれねこれだけだ
あつこれねこれだけだ

税務署に行く必要なし

返信用封筒と申告用紙を同封し税務署へ郵送

申告完了

相談会に必要なもの

- ① 申告書用紙と印鑑
- ② 売上げ経費のわかるもの領収証(ある分だけでよい)
- ③ 扶養家族の生年月日
- ④ 奥さんのパート収入
- ⑤ 昨年中に支払った国民健康保険の金額
- ⑥ 生命保険・火災保険の支払金額
- ⑦ 医療費で十万円以上かつた時はその領収書
- ⑧ 車・重機などを購入したときはその金額のわかるもの
- ⑨ 組合から送った自主計算書をわかる範囲で記入して下さい
- ⑩ 家を建てた人は組合におたづね下さい

ダンプは車持ち労働者もぐり運送でない

白ナンバーでも就労できる

白ダンプは違反車でない

団結の力で勝ち取る

ダンプが運送法違反にあたるか否かを、争った事件として北浜事件があります。この事件で名古屋高等裁判所は、「ダンプ運転手が労働契約上の権利を有する」と判断しました。

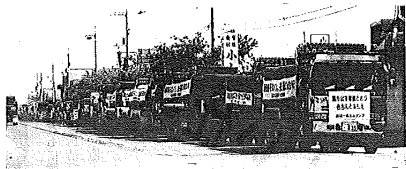
労働契約にあたるか否かは、その契約の形式にとらわれることなく、実質的な使用従属関係があるかどうかで判断すべきであるとしています。

この判決の意義は、第一に、車持ちダンプ労働者と使用者との法律関係が労働法上の労働者であることを明確に認めました。

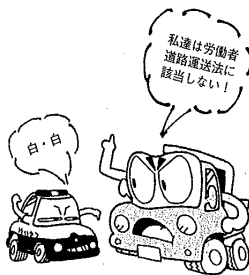
四国でも
処分取り
消させる

徳島県海部郡日建村

のダンプは、九三年九月白トラー行為で書類送検されました。組合に相談に来た時は、すでに貨物自動車運送事業法違反の事実を認め、署名捺印をしたあとで、すぐに組合に加入し、検察庁、陸運支局と交渉しねばり強く闘う中で不起訴を勝ち取りました。



この判決によれば、白ナンバーであっても、労働者として運行しているのであれば、ダンプは賃金労働とみなし貨物自動車運送事業法上なんの問題もないということです。



ダンプナンバー

青白問わず使用できる

九四年五月十九日、運輸省自動車交通局貨物課トラック事業適正化対策とナンバー問題について交渉を行いました。回答は、●白ナンバーが違法かどうかはケースバイケースでの判断であり、白ナンバーII違法ではない。●そもそも規制緩和の時代であり、白ナンバーでの処分を積極的にいこう考えはない。●ダンプ持ち労働者」ということであらば、堂々と仕事を続けてほしい。と回答し、この趣旨と同じであると愛媛、香川、高知、徳島陸運支局も回答しています。

九六年九月四日、マル取で残土運搬をして違反になるかについては、運輸省は「土砂等」の法律はダンプの交通事故防止を目的として制定された法律である。土砂を運搬するとき、背番号が表示されている限りよい。なんの背番号であるかは問わない。と回答しています。

労働者性は契約の形式でない 実質的な使用従属が問題

建設業界の合理化政策で

生まれたダンプ

もともとダンプは、会社が持つて運転手を雇い動かしていました。しかし、建設業界の仕事は受注に流動性（忙しい時、暇な時が極端）があり、面倒な労務管理や車の管理、交通事故の危険負担などがたいへんな為、建設業界の「合理化」政策のもと、運転手にダンプを売却させ個人持ちとし、不安定な車持ちダンプ労働者がつくりだされました。トラックとは違った道を歩んできた経過があります。

背番号は交通安全対策

業者の振分でない

政府は、ダンプカーの交通事故に対処するために、一九六七年八月「土砂等を運搬する大型自動車による交通事故の防止等に関する特別措置法」通称「ダンプ規制法」を交付させ、背番号まる版（砂利販売業）などを誕生させました。

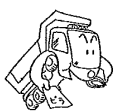
これは、交通事故の時大きな背番号を見ることがよって、どこにだれのダンプかいつもよく見分けるためにつくられた交通安全対策の為の法律で、ダンプを業者として振り分けたものではありません。内容はダンプの実態を全く無視した形式的な法律となっています。

警察庁代車ダンプとの

使用従属関係認める

埼玉県警は、栃木県にある国内で一番大きい砕石生産販売グループの藤坂と、その荷受け会社であるセネコン系列の会社を、過積載ほう助や下命容認で摘発、送検などをしました。

この藤坂事件の最大の特徴は、●過積載で受け取った側を摘発し、刑事、行政処分を行おうとしていること、●砕石販売会社の代車を普通の雇用運転手と同じとみなして、販売会社に使用者としての刑事や行政上の処分を行おうとしていること、●警察庁の考え方が、砕石販売会社と代車ダンプの間を、使用従属関係を認め、車持ちダンプ労働者「運転手」とみなし、使用者責任の追究、荷受け人責任の追究となったこと、●運転手なので貨物自動車運送事業法（白トラー）に該当しないなどがあげられます。



発行 者
770-0847
徳島市幸町三丁目3-7
全日自労建設農林一般労働組合
四国ダンプ協同会
TEL・FAX 0886-22-4347

ダンプに建退共ステッカーを掲示しアピールしよう

国が作った建設労働者の退職金共済制度

あなたも

魅力の 5大ポイント

- 1 安全確実かつ簡単
- 2 企業間を通算して計算
- 3 掛金が一部免除
- 4 掛金は損金扱い
- 5 運営費は国が補助

平成二五年五月一七日、全国ダンプ部会は国土交通省と団体交渉を持ちました。建退共ステッカーを見せてダンプの運転席に掲示している車については建退共手帳を持っているので証紙の貼付をお願いしたいと要請。国土交通省へステッカーを渡しました。四国についても建退共ステッカー普及の運動を進めていきます。ダンプに掲示しよう！

建設業退職金共済制度は、建設現場で働く人のために国が作った制度です。共済手帳に働いた日数に応じ共済証紙を貼り、建設業を辞めたときに証紙の枚数に応じて退職金がもらえます。公共工事では、請負金額に応じて元請は証紙を買い、公共工事が義務づけられ、下請けに働いた人数に応じ支給されます。

退職金がもらえる



建交労働島ダンプ支部
徳島市津田海岸町8-27
TEL 088-663-2500

掛金年数	退職金額
2年	15万6千円
5年	40万8千円
10年	93万6千円
15年	154万8千円
20年	220万5千円
25年	292万7千円
30年	371万7千円
35年	461万0千円
40年	563万3千円

掛金日額 310 円で計算した場合

この車両の運転手は 建退共に参加しています

建設業に従事している車持ち労働者には建退共証紙を貼付することが元請建設会社に義務づけられています。つきましては、私こと車持ち労働者に建退共証紙を貼付するよう求めます。

建退共徳島県支部指定任意組合
建設一般厚生協会
電話 088 (663) 2500

【建退共ステッカー】

繰 拡 大 状 況

年/月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	年間拡大数	実拡大数	現 勢	備 考
1986															6	
1987				0	0	3	2	4	2	6	1	4	22	21	27	87/4オルグ'佐野採用
1988	2	0	3	1	6	5	1	3	15	4	12	9	61	53	80	
1989	5	3	3	0	0	16	2	9	10	10	4	4	66	51	131	1月分会結成
1990	3	2	3	0	0	13	0	9	7	8	3	0	48	4	135	
1991	4	4	7	1	1	7	1	2	3	0	1	3	34	12	147	
1992	6	5	1	3	5	5	4	0	0	4	5	5	43	17	164	
1993	2	0	8	4	2	6	0	12	3	1	4	3	45	21	185	
1994	0	0	2	4	2	1	4	2	6	4	5	2	32	20	205	
1995	2	1	6	1	9	3	8	1	0	3	3	1	38	15	220	
1996	3	3	2	6	2	2	4	1	0	7	2	3	35	17	237	
1997	4	1	0	4	2	2	3	3	7	19	9	3	57	40	277	97/8オルグ'丸岡採用
1998	0	4	15	3	4	9	2	3	11	5	8	1	65	29	306	
	-2	-3	0	-2	-5	-4	-3	-5	-5	-7	-3	0	-39			
1999	6	7	5	9	2	4	0	2	4	3	2	5	49	-6	300	
	-6	-1	-3	-4	-6	-1	-1	-6	-8	-5	-9	-5	-55			
2000	5	2	4	4	2	2	6	2	2	4	4	1	38	-21	279	8月生コン等を分ける
	-4	-4	-3	-6	-7	-3	-1	-19	-4	-2	-3	-3	-59			
2001	2	4	10	8	3	4	1	4	0	8	0	0	44	12	291	
	0	-2	-2	-6	-3	-1	-6	-4	-3	-1	-2	-2	-32			
2002	1	2	2	4	0	2	1	1	1	3	1	1	19	-20	261	
	-2	-3	-9	-2	-3	-1	-3	-1	-4	-4	-6	-1	-39			
2003	1	1	3	0	0	0	2	0	1	2	3	4	17	-29	232	
	-8	-2	-5	-1	-3	-3	-5	-4	-3	-1	-6	-5	-46			
2004	3	3	0	0	2	0	1	0	1	0	0	1	11	-23	209	
	0	-2	-5	-2	-6	-3	-4	-3	-2	-4	-2	-1	-34			
2005	3	2	1	2	5	1	0	0	6	3	1	0	24	-6	203	
	0	-5	-9	-1	-2	0	-4	-2	-3	-2	0	0	-30			
2006	0	1	3	3	0	0	0	0	0	3	2	2	14	-10	193	
	0	-1	-1	-5	-3	-4	-4	-3	0	0	-3	0	-24			
2007	1	2	4	0	3	40	2	1	3	2	2	2	62	16	209	6月生コン・建設・トラック38人合併
	-2	0	-9	-2	-2	-3	-4	-3	-6	-5	-8	-2	-46			

〒770-8001

徳島市津田海岸町8番27号

全日本建設交運一般労働組合

徳島ダンプ支部

TEL088-663-2500

FAX088-663-7706

[Eメール ctgtokushima@kyj.biglobe.ne.jp](mailto:ctgtokushima@kyj.biglobe.ne.jp)

